

河川事業の再評価概要書

() は、前回(H19)再評価時

		番 号	101	
		事業主体	栃 木 県	
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課
路線・河川名	一級河川 <small>たけしがわ</small> 武子川		事業箇所名	<small>うつのみやし</small> 宇都宮市
事業区間	<small>うつのみやししもかけまち</small> 宇都宮市下欠町地先～ <small>うつのみやしかみかけまち</small> 宇都宮市上欠町地先		事業延長	1,646m
平成10年度事業化	都市計画決定なし		平成10年度用地着手	平成10年度工事着手
事業期間	(H10 ～ H28) H10 ～ H28	事業 進捗 状況	基準年次：【平成24年度末時点】	
[うち用地補償費] 全体事業費	[5.8(8.8)億円] 16.9(19.9)億円		[うち用地補償費] 既投資事業費	[3.8(3.2)億円] 9.9(6.2)億円
事業概要				
<p>武子川は、日光市猪倉地内に源を発し、鹿沼市東部の農地を流下し、鹿沼市と宇都宮市の行政境を経て、宇都宮市下欠町地先で姿川に合流する一級河川である。</p> <p>計画区間は、河川断面が狭小で流下能力が不足していることから、豪雨時には宅地や農地に浸水被害が生じている。</p> <p>そこで、河川断面の拡大を図り、氾濫を防止し浸水被害の解消を図る。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
流域内において、大きな土地利用の変化はみられない。				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果				
		【総便益(B)】	【総費用(C)】	
(1) 事業全体	B/C=1.7	34.1 億円	19.9 億円	[L=1,646m 区間]
(2) 残事業	B/C=1.6	10.7 億円	6.5 億円	[L= 846m 区間]
2 事業の整備効果等				
整備を図ることにより、宅地、道路や農地の浸水被害が軽減される。				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
事業延長1,646mのうち、下流端から800mの区間および、若林橋の整備が完了している。				
2 今後の事業進捗の見込み				
今後の事業については、計画的に整備が進められる見込みである。				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
河川工事で発生した土砂は、他事業へ流用し、工事費の縮減を図っている。				
2 代替案立案等の可能性				
残区間の整備については、実現性及びコスト等において、河道改修に優る代替案がないため、現計画が妥当である。				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

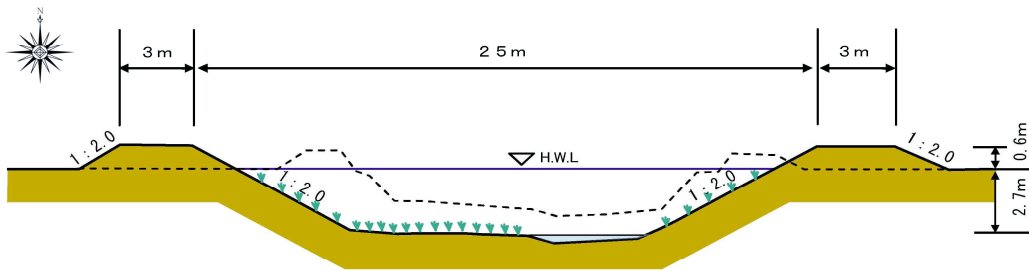
事業箇所(位置図、概要図)

位置図



一級河川武子川

標準断面図



計画流量	150m ³ /s
現況流下能力	概ね80m ³ /s

概要図

